

令和7年度事業報告

1. 事業概要

令和7年度は緩やかな回復基調を続け、2024年度の賃金上昇率は33年ぶりの高さとなる一方で、2025年の個人消費は、食料品など身近な物の価格が上昇する中で、消費者の購買意欲等は下押しされ、賃金・所得の伸びに比べて、心もとない状態が続いております。くわえて、米国による各国への追加関税措置や、中東諸国のイラン戦争が経済を下振れさせるリスクとなっており、賃金と物価の好循環がようやく回り始め定着しつつある中で、こうした経済への逆風を乗り越え、成長型経済への移行が重要となっていると感じる次第です。

そうした中で、富良野市シルバー人材センターの請負事業では受託件数1,144件、前年度1,194件、受託額9,141万円、前年度8,237万円、受託件数は△50件と下回りましたが、受託額は904万円の増額となり受託額は前年度を上回る実績となりました。

派遣事業では受注件数43件、前年度55件、受託額903万円、前年度1,161万円、受注件数は△12件と下回り、派遣金額では△258万円の減額となり、前年度を下回る実績となりました。

会員数は前年度の175名から181名となり6名増となりましたが、目標数の190名には至っていませんが、地域貢献会員の設立により退会会員の抑制効果が表れています。

就業率は86.2%と前年度と同率で、85%台を超える高い就業率になりました。会員の皆様には気温の変動が続くなか、就労して戴き誠に感謝申し上げますと共に、発注者並びに各関係機関の皆様にご理解ご協力をいただいたことに厚くお礼申し上げます。

令和7年度事業実績比較表

区 分		令和7年度	令和6年度	差引増減数
請負事業	正会員数（数）	181	175	6
	粗入会率（人）	2.21	2.11	0.1
	就業率（%）	86.2	85.7	0.5
	受託件数（件）	1,144	1,194	△50
	就業延日人員数（人日）	13,402	12,552	850
	受託額（千円）	91,412	82,371	9,041
派遣事業	受注件数（件）	43	55	△12
	就業延日人員数（人日）	1,928	2,320	△392
	手数料額（千円）	2,045	2,705	△660
	派遣金額（千円）	9,034	11,611	△2,577
受注総額（千円）		100,446	93,982	6,464

2. 事業実施状況

(1) 会員の拡大

- ① 北海道シルバー人材センター連合会と連携し、技能講習や講座を開催し入会促進活動に努めました。
- ② ホームページやSNSの活用、広報誌による宣伝活動や新聞等による宣伝活動も実施いたしました。
- ③ 普及啓発促進月間に合わせて、リーフレットの配布による街頭啓発などの宣伝活動を実施いたしました。

(2) 就業機会確保と基盤拡大の推進

- ① 役職員による顧客訪問を実施し、顧客のニーズを取り入れた訪問活動を行いました。
- ② 会員への希望職種に繋がるため、より多くの講習会・研修会等の開催を実施いたしました。
- ③ 派遣先の就業維持及び新規就業拡大は、訪問活動により新規派遣先の獲得に繋がりました。
- ④ ふれあいセンター指定管理者として、各種講習会やイベントなどの自主事業を実施し、親しみやすい施設運営に努めました。
- ⑤ 会員専用の情報提供サイト（Smile to Smile）や、会報シルバー情報等を活用し、就業情報の提供に努めました。

(3) 安全・適正就業と健康管理の推進

安全就業では、「健康・安全第一」を基本としながら健康促進講習会の開催と安全就業委員会が中心となり安全パトロールを年4回実施いたしました。役職員による特別パトロールも年1回行い、安全就業に対する意識向上に努めました。しかしながら、刈払機作業での飛散事故2件、乗用式芝刈り機での飛散事故1件、物損事故が2件、滑落事故1件の発生状況となりました。

(4) 一般労働者派遣事業の実施

多様な就業機会を確保するため、北海道シルバー人材センター連合会富良野市事務所として、派遣就業の拡大と適正就業の推進に努めました。また、派遣労働者の同一労働・同一賃金のルールに基づきヒヤリングを実施し、正規雇用労働者と非正規雇用労働者との間の不合理な待遇格差を解消した就業環境の整備に努めました。

(5) 独自事業の推進

独自委員会が中心となり野菜等の生産に取り組み、市民との交流の場として10月に「第17回ふれあい生き生きフェア」を開催し、同時に会員独自の生産野菜や小物類も販売し、多くの市民と交流を深めPR活動の推進に努めました。

(6) 指定管理事業の推進

指定管理事業については、4年目の事業となり市民の交流の場としてより一層深めていただくために自主事業として令和7年度は4回マルシェを開催、2月には感謝デー・就労相談を開催し、多くの市民に参加をいただき普及啓発となりました。

(7) ボランティア活動の推進

ボランティア活動として、会員自ら自発的な意思に基づき、よりよい地域社会づくりに参加することが出来ました。4月18日には役職員によるワインロードの清掃、4月24日には全会員による主要公園、観光道路、公共施設等のボランティア清掃を行ない地域貢献活動に努めました。また、10月には介護施設を訪問し、手縫い雑巾を100枚寄贈し宣伝及び、普及啓発活動に努めました。

（８）会員の福利厚生

富良野シルバー親睦会との連携を図り、新たな活動を推進し会員同士が親睦・交流を深めました。

（９）財政基盤強化と組織の活性化

財政基盤の補助金は安定した確保に注力し、適正かつ効率的な経費節減にも努めてまいりました。フリーランス新法における計画的な運営管理は、配分金及び事務費の適正化を図り、リスク管理対策と運営強化に努めてました。公共事業の発注等は市に支援要請を行い、受注・就業拡大の安定供給を図り、運営強化に取り組んでまいりました。

（１０）関係機関との連携強化

富良野市をはじめ、北海道シルバー人材センター連合会やその他関係機関と連携しつつ、役職員によるオンライン会議や研修等に積極的な参加を行い、事業の連携強化に努めました。